

| | | | | | |
|---|-----|-----|------------------|------------|---------|
| 11月度 <small>例会</small> 山行報告書 <small>個人</small> | | 報告者 | 大矢康裕 | 参加 メンバー | CL:大矢康裕 |
| | | 報告日 | 11/14 | | |
| 山域 | 御嶽山 | 山行日 | 07年 11月 02日(金) ~ | | |
| 山名 | 御嶽山 | | 07年 11月 03日(土) | | |

| | | |
|------|----------|------------------|
| 山行目的 | 高所トレーニング | コースタイム(天候:天気図記号) |
|------|----------|------------------|

配布先
集会:12
山行:1
リーダー
原紙:集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

2.5万分の1地図: 御岳高原、御嶽山

| | |
|--------------|--------------|
| 11/2 晴れ | 12:40 摩利支天分岐 |
| 20:05 名大発 | 12:50 |
| 23:40 田の原 | 13:20 二ノ池 |
| 11/3 晴れ | 13:30 |
| 7:10 起床 | 13:50 剣が峰直下 |
| 7:45 田の原発 | 14:05 王滝頂上 |
| 8:20 赤っぱげ | 14:15 |
| 8:30 | 15:40 田の原 |
| 8:50 8合目 | 19:40 名古屋着 |
| 9:25 9合目 | |
| 9:45 中央不動 | |
| 9:55 | |
| 10:05 王滝頂上 | |
| 10:40 剣が峰 | |
| 10:55 | |
| 11:15 二ノ池 | |
| 11:55 摩利支天分岐 | |
| 12:15 摩利支天山 | |
| 12:20 | |

*) 田の原までは11/11まで車で通行可能。それ以降は、御岳スキー場まで

山行報告 前日の金曜日、夜8時まで名大にて目一杯、空手練習をした後、風呂も入らずにそのまま中央自動車道の中津川ICから御嶽山登山口の田の原へ。満天の星空と晩秋の天の川を肴に、ビールと酎ハイで至福のひと時を過ごす。翌日、目を覚ますと、知らぬ間に車が10台以上に増えている。前日の疲れが残っており、7時過ぎに起床。相当冷え込んだと見え、車のフロントガラスは凍ってバリバリ。放射冷却による冷え込みはきつい。大陸からの高気圧の張り出しにより、好天が期待される。御嶽山は、最初のうちはガスっていたが、次第に晴れ、中腹に層雲を従えて天高く秋空に映え、まるで絵葉書のような光景。素早く準備して出発。田の原から見る限り雪はないが、先週の猿投山から見た時は、御嶽山の頂上付近には結構雪があるように見えたので、念のためアンゼン、ピッケル持参、プラスチック登山靴で登ることにする。登り始めると呼吸に違和感がある。体の感覚に注意すると、先々週の伊吹山、先週の猿投山より足取りも重い。アトラトレックの黒澤さん曰く、「標高2000mぐらいから高度の影響が必ずあるはず...」。黒澤さんの言っていたのは、これだと思わず納得してしまった。9合目の急登を登り切ると、王滝頂上に着く。ここまでは登山道には雪はないが、剣が峰を見ると所々雪が付いている。王滝頂上からは風が強く、気温2℃にしては体感温度が低い。剣が峰には10人ほどの人で賑わっていた。眼下の二ノ池方面は雪がべったり着いており、二ノ池は凍っている。当初の計画の飛驒頂上は断念して、摩利支天山の往復まで

とする。剣が峰からはピッケルを出して、ほどよく締まった雪の斜面を二ノ池を目指して下る。20分ぐらいで二ノ池に着く。暑くはないが日差しは強烈で、雪面からの照り返しで眩しい。ここから更に下り、賽ノ河原を經由して、摩利支天山を往復。何もない頂上だが、摩利支天に向かう尾根から見る三ノ池、飛驒頂上とその向こうの槍穂高の眺めは素晴らしかった。名残惜しみつつ、来た道を引返し下山。

リーダー所見 一旦2830mの賽の河原まで降りてまた剣が峰に登るのは、意外とこたえて良いトレーニングになった。特に飛ばした覚えもなく、普通に歩いたにしては、コースタイム8:15のところを、休憩を含めた行動時間8時間で行けたので、ペースもまずまずであったようだ。雪上歩行訓練もできて、充実した山行であった。

フリースペース
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に



剣が峰から二ノ池を望む

確認
(リーダー)
大
07/11/06
矢
作成
(報告者)
大
07/11/06
矢